

(習志野市)財務状況のご報告 ＜平成26年度＞

平成28年3月26日

一般社団法人地方公会計研究センター 理事
公認会計士・税理士 中神 邦彰

新地方公会計制度(財務4表作成)の推移

1. 夕張市の破綻(平成18年6月以前)



2. 財務4表の作成・公表(平成20年度～)

・貸借対照表(BS).....固定資産台帳の作成

・行政コスト計算書(PL)

・純資産変動計算書(NW)

・資金収支計算書(CF)



資産更新問題の重要な鍵



3. アカウンタビリティ(説明責任)の履行・・・現行の官庁会計決算書



は民間では理解し難い

4. 有効活用の実施

①住民説明会 ②BS探検隊 ③習志野家の家計簿チェック

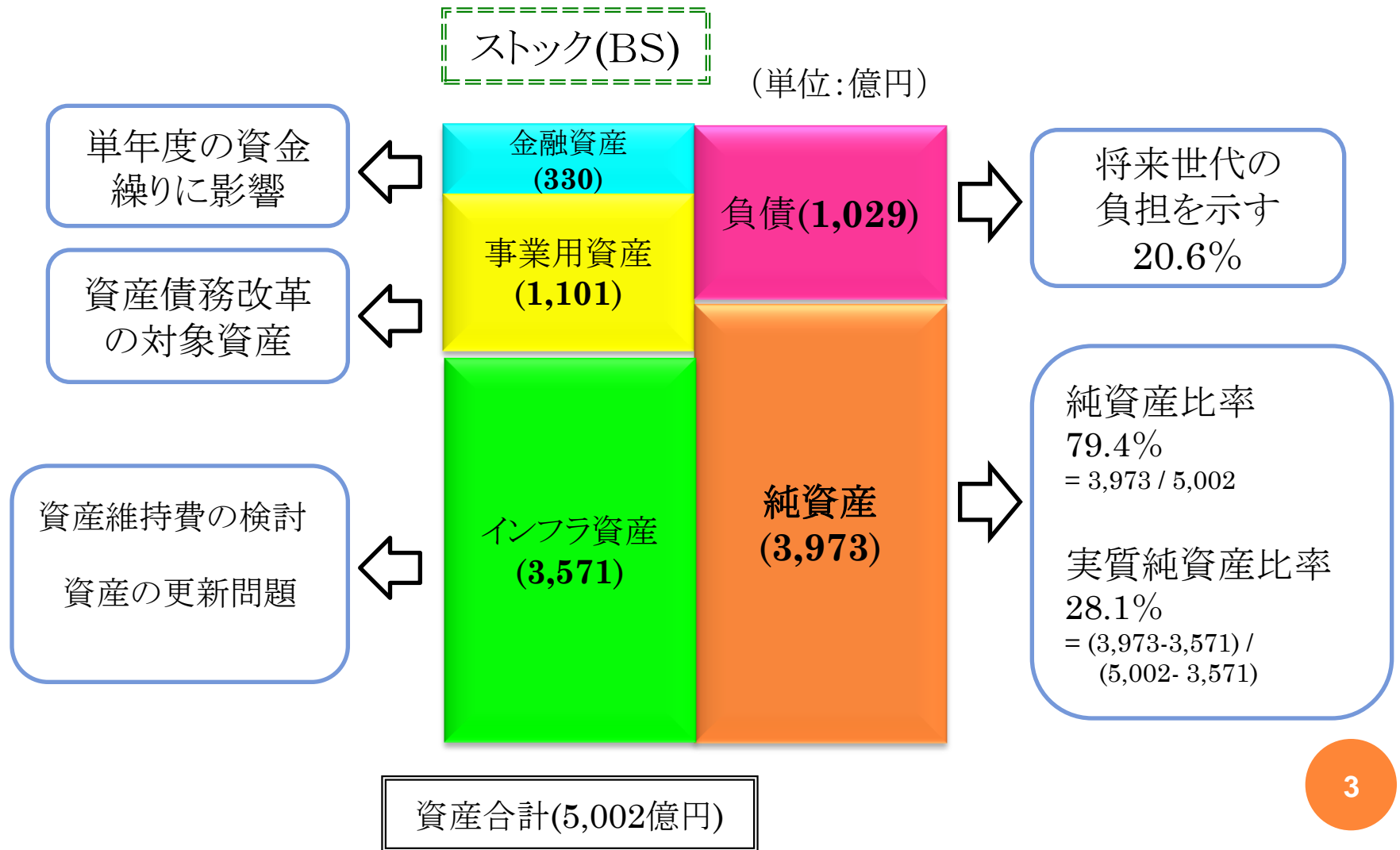
④施設の統廃合

公表から7年経った・・・習志野市の推移と特徴

習志野市(平成26年度)の概要①

ストック(BS)

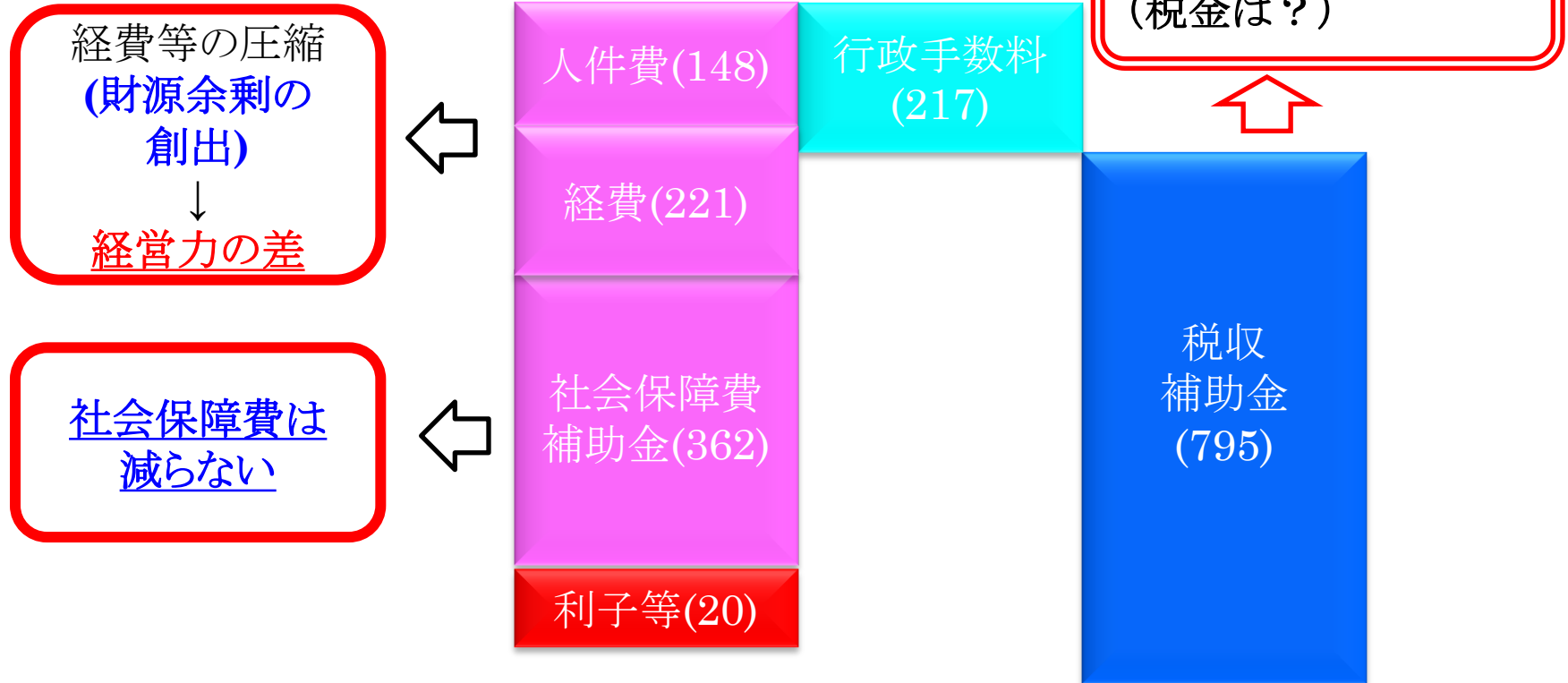
(単位:億円)



習志野市(平成26年度)の概要②

(単位:億円)

行政コスト計算書



費用合計(751億円)

(注)
公会計では税金は行政コスト計算書には計上されない

貸借対照表(7ヵ年比較)

(単位:百万円)

A 資産の部	H20①	H21	H22	H23	H24	H25	H26②	②-①
1 公共資産	557,075	556,527	558,183	475,119	472,829	471,621	467,262	-89,813
a 事業用資産	111,468	110,859	111,164	108,111	109,887	110,184	109,699	-1,769
b インフラ資産	444,819	445,016	446,447	366,411	362,546	361,038	357,139	-87,680
c 売却可能資産	788	652	572	597	396	399	424	-364
2 投資等	5,769	5,199	5,596	6,282	7,954	13,534	13,546	7,777
a 投資及び出資金	185	192	375	557	584	792	543	358
b 基金等	5,584	5,007	5,221	5,725	7,370	12,742	13,003	7,419
3 流動資産	10,631	12,143	13,938	16,233	16,147	21,418	19,448	8,817
a 資金	6,924	8,247	10,044	12,422	12,360	17,470	15,536	8,612
b 未収金など	3,707	3,896	3,894	3,811	3,787	3,948	3,912	205
4 繰延資産	58	8	8	7	7	7	7	-51
資産合計	573,533	573,877	577,725	497,641	496,937	506,580	500,263	-73,270
B 負債の部	H20①	H21	H22	H23	H24	H25	H26②	②-①
1 固定負債	85,521	82,228	81,843	81,909	80,186	79,152	92,270	6,749
a 地方債	69,230	67,752	67,628	68,587	67,401	66,778	66,386	-2,844
b 退職手当引当金	13,059	12,124	11,890	11,522	11,508	11,085	10,865	-2,194
c 借入金等	3,232	2,352	2,325	1,800	1,277	1,289	15,019	11,787
2 流動負債	12,199	11,724	11,270	10,562	10,344	18,054	10,664	-1,535
a 翌年度償還予定地方債	6,478	6,457	6,635	6,161	6,438	6,396	6,012	-466
b 未払金等	5,721	5,267	4,635	4,401	3,906	11,658	4,652	-1,069
負債合計	97,720	93,952	93,113	92,471	90,530	97,206	102,934	5,214
C 純資産の部	H20①	H21	H22	H23	H24	H25	H26②	②-①
純資産合計	475,813	479,925	484,612	405,170	406,407	409,374	397,329	-78,484
負債・純資産合計	573,533	573,877	577,725	497,641	496,937	506,580	500,263	-73,270

貸借対照表のポイント

(1) 基金・資金の増加

- ・固定資産の購入(建築)抑制
- ・資金(未収金)の回収(積立)



今後の資金必要額
の確保

(2) 地方債・借入金の減少

- ・適正な残高水準というものは判断が難しいが、利息の減少は重要

(3) ガス・水道事業の会計の変更による借入金等の増加

- ・平成26年度から会計制度の変更あり

工事(資産)に関する借入金

資本金<純資産>⇒ 企業債<借入金等>

工事(資産)に関する補助金

資本剰余金<純資産>⇒ 長期前受金<借入金等>

行政コスト計算書(7ヵ年比較)

(単位:百万円)

A 総行政コスト	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
a 人にかかるコスト	15,076	14,666	14,997	14,789	14,804	14,659	14,800
①人件費	13,194	13,006	13,058	13,208	13,148	13,164	13,289
②退職給付費用	1,091	1,019	1,320	985	1,083	900	847
③賞与引当金繰入	791	641	619	596	573	595	664
b 物にかかるコスト	18,567	17,547	17,963	21,096	20,349	20,849	22,111
①物件費・経費	16,207	15,337	15,571	18,912	18,199	18,737	19,877
②減価償却費	1,901	1,920	2,154	2,023	2,007	1,936	1,992
③貸倒引当金繰入	459	290	238	161	143	176	242
c 移転支出的なコスト	26,316	30,134	31,917	33,600	33,056	34,719	36,235
①社会保障関係費等	5,701	5,366	7,774	8,534	8,462	9,069	9,603
②補助金等	20,508	24,705	23,936	24,960	24,516	25,503	26,567
③補償費・公債費等	107	63	207	106	78	147	65
d その他のコスト	2,442	2,269	2,077	2,150	2,077	2,080	2,010
①支払利息	1,980	1,914	1,709	1,757	1,541	1,368	1,222
③その他の業務関連費等	462	355	368	393	536	712	788
総行政コスト合計	62,401	64,616	66,954	71,635	70,286	72,307	75,156
B 経常収益	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
a 業務収益	14,408	13,514	13,722	13,932	14,899	15,048	15,229
b 業務関連収益	2,393	1,911	1,833	1,879	1,601	1,724	6,489
経常収益合計	16,801	15,425	15,555	15,811	16,500	16,772	21,718
C 純行政コスト	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
純行政コスト	45,600	49,191	51,399	55,824	53,786	55,535	53,438

行政コスト計算書のポイント

(1) 物件費・経費の推移

- ・維持修繕費 東日本災害復旧費(道路等)14億円強

(2) 支払利息の遡減

- ・公債等残高の減少
- ・高金利の公債の返済がすすむ

(3) 社会保障費補助金等の遡増

- ・全国的な遡増傾向

生活保護費2.6億円増

子育て世帯臨時特例給付金2億円弱

(4) 業務関連収益

- ・施設の民間委託に関連する売却益(資金は昨年度受領済)

純資産変動計算書(7ヵ年比較)

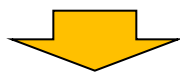
(単位:百万円)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
A 期首純資産残高	473,191	475,813	479,925	484,612	405,170	406,407	409,374
B 当期純資産変動額	2,622	4,112	4,687	-79,442	1,237	2,967	-12,045
I 財源変動の部	2,233	4,919	3,399	2,546	1,723	-1,081	-12,700
a 財源の用途	62,163	63,683	66,218	71,266	69,012	75,513	92,166
①純行政コストへの財源措置	45,600	49,191	51,399	55,824	53,786	55,535	53,438
②固定資産形成への財源措置	7,144	6,011	6,641	6,412	5,665	7,180	7,313
③長期金融資産形成への形成措置	1,917	2,130	1,347	2,278	2,937	6,230	6,657
④その他の財源措置	7,502	6,351	6,831	6,752	6,624	6,568	24,758
b 財源の調達	64,396	68,602	69,617	73,812	70,735	74,432	79,466
①税込	28,451	27,925	27,245	27,203	26,985	27,906	29,111
②社会保険料	5,936	6,237	6,230	6,236	6,532	6,672	6,823
③移転収入	19,519	23,230	25,534	30,185	27,220	28,888	29,408
④その他の財源の調達	10,490	11,210	10,608	10,188	9,998	10,966	14,124
II 資産形成充当財源変動の部	10,408	6,242	8,423	-75,565	5,825	9,092	7,290
a 資産等の減少	13	5,482	3,538	87,777	11,951	6,354	9,018
①固定資産の減少	0	2,774	1,754	2,331	10,560	3,548	4,999
②長期金融資産の減少	0	2,696	1,641	1,638	1,328	2,146	3,995
③評価・換算差額等の減少	13	12	143	83,808	63	660	24
b 資産等の増加	10,421	11,724	11,961	12,212	17,776	15,446	16,308
①固定資産の増加	8,469	9,564	7,633	6,470	6,057	7,792	8,465
②長期金融資産の増加	1,917	2,130	1,347	2,278	2,937	6,230	6,657
③評価・換算差額等の増加	35	30	2,981	3,464	8,782	1,424	1,186
III その他の純資産変動の部	-10,019	-7,049	-7,135	-6,423	-6,311	-5,044	-6,635
a 開始時未分析残高	-10,019	-7,049	-7,105	-6,348	-6,300	-5,035	-6,635
b その他純資産の変動	0	0	-30	-75	-11	-9	0
C 期末純資産残高	475,813	479,925	484,612	405,170	406,407	409,374	397,329

資産更新問題への対応のポイント

資産の更新問題 = 莫大な資金が必要となる **マクロの検討**

1. 適正な資産規模の達成(施設の統廃合を含む)
→ 投資額およびメンテナンスのトータルコストを逡減させる
2. 適切な維持修繕による資産の長寿命化
→ 耐用年数の延長により実質的な投資コストの削減
3. 経営資源(ヒト・モノ・カネ)を優先的に集中して投資する



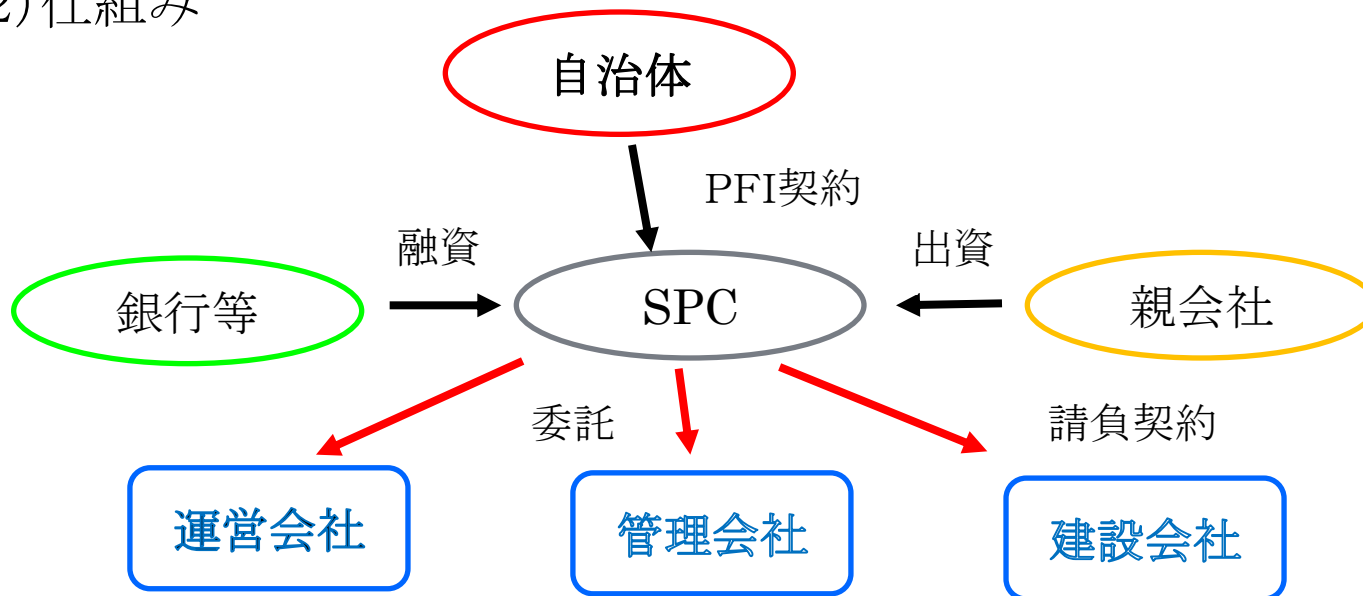
- ① 維持費を含めた投資額の検討
(利用者の)使い勝手と維持費のバランスの調整
- ② 民間活力の活用
例えばPFIの活用・・・サービスの向上とコスト低減の追求

(参考)PFI

(1)PFIとは (公営住宅・上下水道・駐車場・給食センター・図書館等が対象)

- ・公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法(実施経験は自治体の約1割)

(2)仕組み



(3)ポイント(課題)

- ・コスト低減を前提に如何にサービスの上昇を確保するか

地方自治体運営の今後のポイント

敢えて昨年と同じ堤言をします！

1. 行政側の課題

継続的見直し(行政評価等による事業費,人件費を含めた経費)

→ 自主財源の確保

2. 住民側の課題

過度な行政依存の回避 ⇔ 経費とのバランス

全体最適への理解・・・最終的な負担は住民が負う

3. 資産に対する適切な認識

インフラ資産はコストがかかる(取得・メンテナンス)ことを適切に認識するとともに、今後、資金をどのように調達するかは行政と住民にて考える必要がある